屏

金の 調度

Ⅱ期:二〇二六年一月十一日 (日) · 二月 八日 (日)

相国寺承天閣美術館



【概要】

日本の家屋の調度品の中で、屏風は部屋の仕切りなどに

使われてきました。二枚、六枚と繋がれた画面は、 その

折り目にあわせて立体的に我々の視覚に迫ります。 特に

ます。描かれる内容も、中国の故事、日本の風俗、四季 金地に鮮やかに描き込まれた画題は大きな存在感を誇り

の花鳥など、多岐にわたります。本展覧会では、相国寺

を荘厳した伝来の屏風群を中心に、水墨、金地の華やか

な屏風など、 館蔵の屏風を公開いたします。

右隻

第一章 相国寺を荘厳する屏風

琴棋書画図屏風 相国寺蔵 Ⅱ期

郭子儀兒孫遊嬉四屏風 相国寺蔵 I期 (図)

色紙短冊貼交屏風 相国寺蔵 Ⅰ期右隻、Ⅱ期左隻

初公開 馬図屏風 慈照院蔵 I 期



左隻

右隻



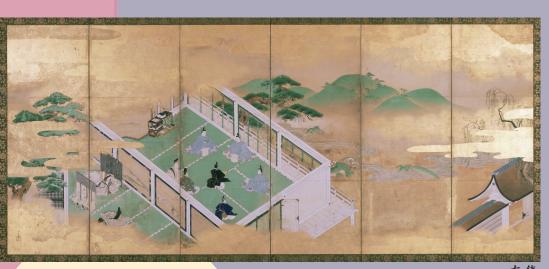
第二章 人々の営みを描く屏風

源氏物語図屏風 狩野常信筆 相国寺蔵 I 期 図)

四季耕作図屏風 狩野永常筆 相国寺蔵 Ⅰ期

扇面貼交屏風 狩野義信筆 林光院蔵 Ⅲ期

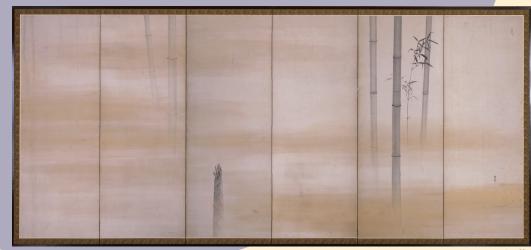
初公開



左隻

柳図屏風 第三章 自然を描く屏風 溪亭春興·秋山行楽図屏風 池大雅筆 狩野宗秀筆 相国寺蔵 Ⅱ期

竹図屏風 呉春筆 相国寺蔵 Ⅱ期(図) 慈照寺蔵 I 期



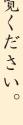
右隻



【みどころ1】伝来の金屛風

には、 華やかな作品をその由緒とあわせてご 屛風が今に伝えられています。その中 されています。そして実際に様々な金 した。 えて、寺宝として大切に扱われてきま りに用いるための実用品という枠を越 金屛風などもあり、単に風よけや仕切 の什物目録には、「金屏風」が複数記 相国寺の江戸時代から近代にかけて 後水尾院やゆかりの宮家寄進の 江戸時代の相国寺伽藍を彩った







【みどころ2】塔頭寺院の小襖

す。 展示室でじっくりご覧ください。 藤若冲の水墨の代表作の障壁画で有名 襖などを初公開いたします。さらに伊 さな収納空間を仕切る小襖のうち、慈 決定付けるのが内装に描かれた障壁画 照院の東山天皇より拝領した御殿の がちな、床の間脇の棚に設けられた小 よる一之間と四之間の小襖を公開しま な鹿苑寺の大書院より住吉如慶の手に 屏風が置かれる建物の印象を大きく 愛らしい犬が描かれた小襖など、 その障壁画の中でも見落とされ

二〇二六年 一十月月 一九 日日 日日 十二月二十 八一 日日 日日

三月

日

館時間 〇二五年 十二月二十二日 (月) 二〇二六年 月 日 (土)

~十七時 入 館 は 十 六時半まで)

大大拝十開 学人観 与 料 与 時

八 0 0

円

学生

上同 は伴 無料

※小中 団 体割引 で各 八 0 0

二○二六年二月二十一日 (土) 十 四 時 十 五 一時半

「楽しい 屏風絵の見方」

東京国立博物館主任研究員)

※定員先着八十名様 場所:当館二階講堂(開場十三時半) 講師:山下善也氏 美術史家(元·申

二〇二五年十一月一日 (土) 四 時 五 一時半

「寺院空間におけ る屛風」

当館学芸員

※定員先着八十名様場所:当館二階講堂 | (開場十三時半)

・ヤラリ ク

※各イベントには当日の拝観☆場所:展示室担当:本多潤子 当館学芸員担期:二○二六年二月七日(土田期:二○二五年十二月六日 四時 四

(土)、 三月七日 十四 時 十 -四時半

拝観 券が 必要です

▶ P 京都市営地下京都駅より

京都市営地一京都市営地一 駅 下 三番 口 か Ġ 徒 歩 八 分

市バス五九、京都市営地 三番出 口 分か ま徒た はハ 市分 バ

下九出 町 駅三番出口より = 〇三号系統 徒歩二、

□川下車 1 ス

馬丸今出り同志社前で 今ス出一 徒歩八分

合わせ先

担相道 旧国寺承天閣美術公見関係者様お問いる 館PR事務局 \widehat{T} M オ フィ ス内)

MOBILE: [OBILE: 〇九〇- 五六六七 -1,当:馬場・西坂・永井 〇〇六三 (永井)

八〇七一二九一九八〇七一二九一九

FAX: O六 - 六二三一 -TEL: 〇五〇-一 四四四 四〇

E-mail shokokuji@tm-office.co.jp

大阪市中央区平野町四下五四一-〇〇四六

セ 1 七平野町イ カワビル



右隻

第一章 相国寺を荘厳する屏風

琴棋書画図屏風 相国寺蔵 Ⅱ期

郭子儀兒孫遊嬉四屏風 相国寺蔵 I期 (図)

色紙短冊貼交屏風 相国寺蔵 Ⅰ期右隻、Ⅱ期左隻

初公開

馬図屏風

慈照院蔵

I 期



左隻